



岐阜総合学園高等学校吹奏楽部

収穫祭

概要

担当：美術館
 日時：11月3日(金・祝)10:00~16:00
 場所：美術館庭園、講堂
 スタッフ：各参加団体(8団体)、美術館
 参加人数：3,482人

(うち上映会31人、プランターボックス47個・植木鉢312鉢配布)



講堂映像上映



植木鉢プレゼント



Sound of Natural Voices



岐阜の森学園



笑いヨガ



MJ TRIBE 岐阜



サラマンカ

少年少女合唱団



加納高等学校
書道部

アートまるケット「ツナがり ツナがる ツながれば」最終日のイベント、収穫祭。美術館・図書館で開催された「文化の森の秋祭り」と合同で実施した。会期中、各種団体が美術館庭園を中心に活動し、当日は庭園の特設ステージにて様々なパフォーマンスを披露した。講堂では、ドキュメントブースで展示していた会期前の活動映像を上映した。他にも会期中庭園を彩った「焼き杉船形プランターボックス」47組と「人型文様付き植木鉢」312鉢を来場者にプレゼントした。

- コンサート後にこちらを見て、障がいのあるなしは関係ない。一つのことを一生懸命にやり遂げるのはどんな人でもいっしょで、楽しさを含みつつ一生懸命であることで考えることができた。(岐阜市・50代女性、講堂上映)
- 今回のアートまるケットに参加されたいろいろな機関の活動の様子を知ることができてよかったです。障がいの方への広がりがだけでなく、障がいがある方と関わりあった皆さんの気持ちの変化や広がりを感じました。(岐阜市・30代女性、講堂上映)

- みなさんがつながって一生懸命活動されている様子がうかがえて心があたたかくなりました。(揖斐川町・50代女性)
- 普段あまりつながりを持たない同士がツナがって大きくなれば世界はもっと広がるし楽しいと感じました。(各務原市・40代女性)



パフォーマンス

やさい de ミュージック?

概要

担当：情報科学芸術大学院大学[IAMAS]×ふれ愛の家
 日時：2017年11月3日(金・祝) 13:15~14:00
 場所：美術館庭園
 スタッフ：ふれ愛の家 18人、情報科学芸術大学院大学[IAMAS] 4人、美術館3人、他
 参加人数：66人



やさいdeミュージック?演奏



演奏と同時に描くパフォーマンス



来場者と一緒にダンス

ふれ愛の家(HUREAINOIE)によるパフォーマンス。IAMAS篠田幸雄プロジェクト研究補助員が開発した野菜を叩くと音が出る楽器を使用し、メンバーが、歌い踊り、絵を描いた。



IAMASへ
インタビュー

- とても賑やかで楽しかったです(40代男性)
- 健常者・障がいの者の壁なく、参加できる企画を、継続してほしい。(池田町・50代女性)
- 晴天に恵まれて、皆さんの熱心なパフォーマンスに感動しました!(岐阜市・60代女性)

- あつという間の時間でした。(60代女性)
- とても楽しくて元気を頂きました。(60代女性)
- 会期前、収穫祭に参加するのを躊躇していたメンバーが当日来ていた。次のステージイベントにも数名参加するなど、本当に楽しそうだった。メンバーの明るさもあってか、みんながこんなに簡単にツナがれる。これがアートまるケットの目指すところかもしれない。(スタッフ)



アートまるケット2017を振り返って —「まるけ丸」出航!

アートまるケットはいわば「船」のような一つの共同体だ。館長日比野克彦がディレクションし、美術館と4つのアカデミー・大学院大学が協力して企画・運営を行う。キャプテン・日比野が舵をとり、アカデミー・大学院大学、美術館のクルーたちが船を漕ぐ。我々は2015年「まるけ丸」に乗船、美術館の建物から庭園へと漕ぎだし、2017年、ついに美術館の外、大海原へと出航した。海原には様々な「島」が点在しているが、今回は県内7つの教育・医療・福祉施設という島に上陸した。

島では何が起こったのだろうか。IAMASが特別支援学校の生徒のためにアプリや教材を開発したように、アカデミー・大学院大学の教員・学生はそれぞれに専門性を持ち、各施設に技術や知識を提供した。こうした場合、アカデミー・大学院大学が「主体」、施設が「客体」となりがちだが、今回のアートまるケットでは、会期前に複数回交流を行ったことで異なる分野間に新たなコミュニケーションが生まれ、双方の関係性に変化が見られた。

最も印象的だったのは、参加した学生の変化だ。国際園芸アカデミーの相田准教授は交流前、学生から「鉢づくりを特別支援学校の生徒に教えてもらうのか」という質問を受けた。この時点で学生は、自身が障がい者を守り、教える側にいると思っていたのだが、実際には普段から鉢づくりに慣れている特別支援学校の生徒に教えてもらう側であり、学生はそれまでの考えが覆る体験をした。

このほかにも、森林文化アカデミーの学生は当初、障がいにより言葉や表情で表現することが難しい子とどうコミュニケーションを取ればよいか悩んでいた。しかしある日、学生が木の枝に葉っぱをかけて目の前で揺らしたところ、普段反応のない子がいつもより首を激しく振ったことで、その子が何を好きなのかを知る。普段使っている言葉や表情以外で相手を知る方法があることに気づいた瞬間だった。一方、国際たくみアカデミーの学生もプランターのつくり方を参加者に教えるうちに、改めて自

分がものづくりを楽しんでいることに気づく。相手との協働があった初めて自らの変化を感じる、自らが当たり前と思っていることは案外そうではないと気づく。交流の中で自らを知り、それまでの考えが変化していった。

こうした関係性については、既に現代美術やアートプロジェクトで研究、実践が行われており、「社会との協働」はアート界で一つの潮流となっている。実際、日比野は日本のアートプロジェクトを牽引してきた一人だ。彼が実践してきたプロジェクトでは、船や種をキーワードに、様々な地域や人の交流を行ってきた。島を「LAND」と呼び、色々な人が出入りする場とするコンセプトも日比野によるものだ。*島には上陸しなければわからない文化がある。クルーは島の人々と交流・協働し、美術館へ共に帰港する。美術館に訪れた来館者は一般に開かれる機会が多くはない施設の日常を知り、そこで施設の方々と共にイベントに参加する。

こうして美術館は異なるバックグラウンドや価値観を持つ人々が集まり、普段会わない人と出会い、交流する一つのプラットフォームとなった。そこでは相手の日常を知り、自らの価値観にも気づく瞬間がある。また、展示やイベントのみならず、「アート」と「ツナがり」をテーマに各施設をつなげることも美術館の役割となった。アカデミー・大学院大学との過去2年間の連携があってこそ、岐阜県美術館史上初めて、多数の機関と一度につながる事業を行うことができた。改めて今回ご協力いただいたアカデミー・大学院大学、各施設に深く謝意を表したい。

これからも美術館は人や地域をつなぎ、交流が生まれるプラットフォームであり続ける。新たな美術館時代の幕開けだ。多くの島々に出会える大海原へ、「まるけ丸」出航!

(岐阜県美術館学芸員 芝 涼香)

* 森司監修、佐藤恵美・奥山理子編『TURN NOTE 「TURN」を考えたときの言葉2016』アーツカウンシル東京、2017年



資料

○2017年 ○会期日数61日 ○来場者数41,781人(1日平均 約685人)

メディア掲載

掲載月日	新聞・雑誌名	掲載ページ	内容
8月24日	岐阜新聞	朝刊1面	今年も「まるケット」
8月24日	岐阜新聞	朝刊30面	「まるケット」あす開幕
9月 9日	岐阜新聞	朝刊8面	県美術館「アートまるケット」に寄せて (寄稿:担当学芸員芝涼香)

CCN放映

11月 7日	岐阜盲学校「THE STARLIGHT CLUB BAND」
--------	--------------------------------

ぎふチャン放送

10月 2日	「アートまるケット」レポート
--------	----------------

twitter「アートまるケット」

6月30日開設	38件投稿
---------	-------

facebook「日比野克彦ディレクション アートまるケット 岐阜県美術館」

6月30日開設	36件投稿
---------	-------

広報物



ポスター・チラシ



チラシ裏



イベントチラシ



収穫祭パンフレット



関係者

株式会社カトウスタジオ		
株式会社タナカサイン		
株式会社フレンドシップ		
岐阜県立大垣特別支援学校	青山 幸二(教頭) 川瀬 和仁(高等部部主事)	新川 教(教頭)
岐阜県立加納高等学校書道部		
岐阜県立可茂特別支援学校	齋藤 寛光(教諭)	園井 美有(教諭)
岐阜県立岐阜総合学園高等学校吹奏楽部		
岐阜県立岐阜盲学校	林 亨(校長)	田中 祐衣(講師)
岐阜県立岐阜本巣特別支援学校	水野 慎治(教頭) 鬼頭 敬子(教諭)	廣瀬 明日香(教諭)
岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター	井戸 英二郎(児童福祉支援室課長補佐兼入所児支援係長) 鈴木 江利奈(保育士)	
岐阜県立国際園芸アカデミー	相田 明(准教授)	宮地 雄二(教務課長)
岐阜県立国際たくみアカデミー	大野 生二(建築科長)	御田村 真毅(建築科・技術主査)
岐阜県立森林文化アカデミー	松井 勅尚(教授)	
岐阜の森学園		
撮影(ドキュメントブース映像)	池田 泰教	ウエヤマトモコ
撮影(会期中活動映像)	寺島 真希	
撮影(会期中活動写真)	田中 耕太郎	
サラマンカ少年少女合唱団 CORO Junior		
社会福祉法人 池田町社会福祉協議会 池田町障害福祉サービス事業所 ふれ愛の家	中村 武文(副所長兼サービス管理責任者)	
情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]	山田 晃嗣(准教授) 小林 孝浩(教授)	篠田 幸雄(プロジェクト研究補助員) 金山 智子(教授)
特定医療法人 清仁会 のぞみの丘ホスピタル 地域生活支援センター ひびき		長村 慎太郎(サービス管理責任者)
笑いヨガ		
Happy Beat みのうらやすよ		
MJ TRIBE 岐阜		
NPO岐阜県園芸福祉協会岐阜支部		
Sound of Natural Voices		

【事業】アートまるケット2017
「ツナがり ツナがる ツながれば」
監修：日比野 克彦
企画担当：岐阜県美術館 芝 涼香、後藤 弘行、森竹 舞

【事業報告書】アートまるケットレポート2017
編集：芝 涼香、森竹 舞
印刷：サンメッセ株式会社
発行：岐阜県美術館 2018年9月28日
〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22
TEL 058-271-1313 FAX 058-271-1315